

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第78号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1 ……

巻頭随想

模倣から自己表現
への陥穽

木庭 元晴

Page 2 ……

卒業生だより

スリランカのティ
ー・プランテーシ
ョン〜ブルー・フ
ィールド・ティー
・ガーデンズを訪
ねて〜 柿原 昇

Page 3 ……

卒業生だより

グローバルに考
え、ローカルに学
ぶ。 舟越 寿尚

Page 4 ……

学窓から

地理学を学ぶから
には 張 顕知

Page 4～5 ……

実習調査報告

尾道市での実習調
査 中野さくら

Page 5 ……

秋の日帰り巡検

八尾市域の過去と
現在を歩く
松原 太陽

Page 6～7 ……

研究ノート

八尾市北高安地区
における花き栽培
とその流通
付 雪夢

Page 8～9 ……

院生・学部生の業 績

教室だより

Page 10 ……

随想

ブラジル日系コロ
ニアの文化活動
内田 忠賢

Page 2～5, 8, 9…

卒業生・修了生か らのひと言

〈巻頭随想〉

模倣から自己表現への陥穽

木庭 元晴

いま、寂れたカフェでサンドイッチを食べ終
わった。初稿を出してきた満足感にある。最初
の学術論文と言えるものは卒論の一部を東北地
理（現季刊地理）に投稿したものである。初稿
を修正する上で、中田高先生（現広島大学名誉
教授）、若生達夫先生（現宮城教育大学名誉教
授）、牧田肇先生（現弘前大学名誉教授）、そ
して高橋達郎先生（現岡山大学名誉教授）には
親身にご指導いただいた。この論文を経て一応
の研究者の仲間入りをすることになった。

卒論では、特に指導教授であった米谷静二先
生（鹿児島大学名誉教授、俳人百選の一人）
と、その論敵であり調査事故で当時若くして亡
くなった武永健一郎、明神礁の爆発で亡くなっ
た田山利三郎、半沢正四郎、そして USA 地質
学会会長をされた R. J. Russell などを中心に読
んだ。卒論は奄美群島の沖永良部島で実施した
が、この東北地理の論文作成中に自分の研究手
法の未熟さを痛感した次第であった。

卒論提出後、琉球列島のほぼ全域の第四紀層
と海岸段丘の研究をして、電子スピン共鳴法と
放射性炭素年代測定法を使って、沖縄県の海岸
段丘および隆起珊瑚礁の年代を決定し、沖縄県
土地分類図を作成し、課程博士号も得るのであ
るが、卒論時の懸案を放置してきた。いよいよ、
地球科学的な研究の時間がなくなる驚異を感じ
て、一年先輩の川口昇さんと相談した。学部時
代、川口さんの存在は大きかった。3月末から
4月初めにかけて潮が昼間かなり低下する。一
年でも最も大きく下がる春の大潮である。この
最も良い時期に、一週間ほどの再調査にご同行
頂ける。

自然地理学の教員をしてきた人々が少なから
ず人文地理や地理教育や学史に走る。若い時は
この現象は学問からの逃げだと思ったりしてい
た。その流れに違うことなく、ほくも飛鳥研究
に没頭している。ほくの学生時代、Y 先生が
ヒマラヤ地形研究から構造主義に走って、地球
史から外れてヒマラヤ地形の配置とか、磐梯山
1888 年爆発などの資料発掘などをされていた。
S 先生は事有るごとに、院生の集まる場で批判
されて、ほくなぞもご本人を前にして地形学は
成因論ではないでしょうか、なんてほざいたこ
ともあった。

知人に売れない芸術家がいる。研鑽を積んで
本人の人格が赤裸々に出てきた。研究者も若い
ときは模倣で学会の流れに則っているのである
が、本人のというより学問の限界に、遅かれ早

かれ気付く。そこではじめて、自分の頭で考
えるようになる。試行錯誤しつつ研鑽を積むほど
個性が出てくる。まあその個性が曲者ではある。

ところが、である。2012 年頃からいやいや
始めた飛鳥の自然研究？ではあったけど、次か
ら次へと発見が続いている。一昨日でも大きな
発見があった。一つの疑問をまじめに考えると
必ずと言って良いほど新たな発見がある。この
3月末の日本地理学会でも口頭発表する。3月
末発行の関西大学博物館紀要にも、月刊地理に
も異なったテーマの成果が掲載される。今日の
初稿の提出先は関西大学出版会である。書名は
いまだ決めていないが予算年度の縛りからこの
3月末には発行される。これまでの研究成果を
まとめたものである。この本の、推理から確証
へと題したまえがきの内容は去年の千里地理研
究会で発表した。その始めに新たに次の一つの
段落を付け足した。

『日本書紀』神武紀によれば、天皇が熊野か
ら入って地元の豪族との戦いに疲弊していた
際、夢に高皇産靈神が現れて、天香具山の赤土
を取ってきて云々というお告げに従った。その
後は破竹の勢いで勝ち進み、ヤマトに入る。古
代世界の覇権を得て飛鳥宮都の谷で飛鳥文化が
花開くのであるが、この谷に天香具山山頂を通
過する天の北極軸が貫通していた。飛鳥時代の
始まりの推古期に建立されたとされる谷南端の
橘寺から、飛鳥時代の終わりの文武朝に建立さ
れた谷北端の大官大寺まで、伽藍の中心をなす
仏塔跡が正しく通過している。この天香具山軸
を筆者は発見した。天香具山信仰はヤマト王権
のものであり、天の北極軸は大陸の価値観であ
って、この天香具山軸は当時の価値世界を如実
に表している。このほか、これまで誰も見いだ
せなかった飛鳥時代の世界観と都市デザイン力
を感じてもらえると思う。再現性を確保するた
めに導出過程を示しているところもあるが無視
頂いても筆者の論理を理解する上で何の問題も
ない。

上の段落を読んで頂いても内容は全く想像で
きないかもしれない。一例を示そう。これまで
の考古学では、飛鳥、藤原、そして奈良盆地で
は、東西方向および南北方向の地割りや道路そ
して伽藍の矩形は、ほぼ一貫して多少西に振っ
ていることがわかっている。ほくはその理由を
知っている。まだ発表しないけれどもすでにほ
くのこれまでの報告に臭わせている。それより
も、天香具山山頂を通過する天の北極軸が飛鳥
宮都の谷に百年余り生きていたことの発見を重
視してきた。飛鳥について、これまで誰も想像
できなかった発見をもう少し続けることができ
ると思っている。（こば もとはる：本学教授）

スリランカのティー・プランテーション

～ブルー・フィールド・ティー・ガーデンズを訪ねて～

柿原 昇

秋山秀星

地理学専修の活動で、色んな地域に巡検で行くことができたことは本当に貴重な経験になりました。元々、旅をするのが好きでしたが、巡検を通して行ったことがない土地について理解を深めることがさらに楽しく感じられるようになりました。

天野北斗

小学生の頃から地理が大好きで、関大の地理学専修に入れて幸せでした。鹿児島県での実地実習や各地へのフィールドワークは全て僕のいい思い出です。本当にありがとうございました。

今西ともみ

地理学専修に入り、巡検や実習調査などの貴重な経験をすることができました。先生方、先輩方、同期のみなさん、本当にありがとうございました。

川口さくら

鹿児島への調査実習をはじめ、色々な方面への循環などを通し、地理学専修ならではの経験がたくさんできました。先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました！

北村有希

観光分野について興味が深まり、自分の就活に影響を与えられたこと、尊敬できる教授の皆様や、心の許せ

2017 年 8 月、岐阜地理学会の創立 70 周年記念のスリランカ巡検に参加する機会に恵まれた。この巡検での私の最大の関心事は、スリランカのティー・プランテーションの現状を知ることであった。私は以前、韓国の茶栽培について少し調べたことがあり、それ以来インドやスリランカのティー・プランテーションにも興味を持ち、現地への訪問を楽しみにしていた。ところが、5 月中頃から 6 月上旬にかけてスリランカは記録的な豪雨が続く、洪水や土砂崩れで大きな被害が発生し、巡検の実施が危ぶまれた。しかし、6 月下旬の説明会で、予定通り実施できるという報告を受け、ひとまず胸を撫で下ろした。8 月に入り出発直前、在スリランカ日本国大使館より安全対策情報を入手した。それによると、デング熱が大流行し、7 月だけで 3 万人弱が罹患し、死者も出ているという。そこで、急遽昆虫忌避剤を用意したが、大変不安な気持ちを抱いての旅立ちとなった。

スリランカはセイロン紅茶の産地として世界的に有名である。スリランカで茶の栽培が始まったのは、今からちょうど 150 年前。オランダからセイロン島を奪取したイギリスは、オランダが導入したコーヒー園をさらに発展させ、1840 年には 200 を超えるコーヒー園を運営していた。しかし、1860 年代にさび病菌がコーヒー園を襲い、壊滅的な被害を受けた。このような状況下、1867 年、スコットランド人の J・テラーがキャンディのルーラコンデラにアッサムの茶樹を植樹したのがきっかけで、その後、年中温暖な気候環境の下で、コーヒーに替わるプランテーション作物として茶の栽培が本格化するようになった。セイロン紅茶の産地は、島の中央部から南部にかけての地域に分布し、その栽培地域の標高により、ハイ・グロウンティー（1200 m 以上）、ミディアム・グロウンティー（600～1200 m）、ロー・グロウンティー（600 m 以下）に区分される。一般的にハイ・グロウンティーが味・香り・水色のバランスがとれた高級茶といえる。スリランカの紅茶生産量は年間ほぼ 33 万トンで、ロー・グロウンティーの生産量（2015）が約 60% を占め、次いでハイ・グロウンティーが約 23% と続く。スリランカの総輸出額に占める茶の輸出額の割合は 12.7% で、衣類 45.7% に次ぐ重要な輸出品である（2015）。



写真 タミル人茶摘み女（ブラッカー）

我々はハイ・グロウンティーの産地の 1 つである丘陵地帯に位置するヌワラ・エリヤにあるブルー・フィールド・ティー・ガーデンズを訪問した。この茶園は 1921 年、イギリス人によって開園され、現在はスリランカ人兄弟が約 80 ha の茶園を経営している。この茶園には紅茶製造工場の他、レストランと紅茶を販売する売店が併設されている。ここでは年間を通じて茶摘みが行われ、“ブラッカー（Plucker）”と呼ばれる主にタミル人からなる茶摘み女が 100 人登録されている。このほか、茶園を管理する男性労働者 70 人、紅茶工場の主に女性労働者、レストラン等で働くスタッフなど併せて約 100 人の従業員を有する。この工場は茶園のスタッフの案内で、無料で紅茶の製造工程を見学することができ、さらに紅茶の試飲も楽しめる。この茶園には 1 日平均 600～700 人の観光客が来園するという。当日は熱帯地方特有のスコールが激しかったが、茶園ではレインウェアを着用したブラッカーが茶摘みを行っていた。彼女らは 1 日 20kg の茶葉を収穫し、780 ルピー（約 570 円）の日給を得ているが、その賃金は安く、観光客のチップを期待している様子が窺えた。この国の茶園労働はタミル人に大きく依存しているが、最近では後継者が育たず、労働力不足に陥っている茶園が増えている模様である。このような状況が深刻化すると茶摘み機を導入するなどの対応策が必要となってくるであろう。いずれにしても、伝統的なスリランカの紅茶産業がさらに発展することを願ってやまない。

（かきはら のぼる：愛知学院大学非常勤講師、1978 年修士課程修了）

■ □ 卒業生だより □ ■

グローバルに考え、ローカルに学ぶ。

舟越 寿尚

私は現在、東京都大田区の『大森 海苔のふるさと館』で働いています。かつて大田区沿岸で行われていた海苔漁業を伝えるため、2008年4月に開館した地域博物館です。

館の展示テーマは「海苔のまち大森の記憶」となっていて、国の重要有形民俗文化財に指定されている「大森及び周辺地域の海苔生産用具」を展示・収蔵し、昔の海苔づくりや地域の歴史を学ぶことができます。海苔つけ（乾し海苔づくり）体験や、海苔漁業の伝統技術を応用したワークショップも定期的に実施しています。大森ふるとの浜辺公園に隣接しているため、同公園のビジターセンターとしての機能のほか、公園内の人工海浜を利用した海苔の生育観察や生き物観察会も実施しています。

海苔は、幼少の頃から食べるのは好きでしたが、全くの専門外。大阪生まれ大阪育ちの私にとって、東京都や大田区には地の利もありませんでした。着任してからは事務などの基本的な業務を覚える傍ら、大森のことや海苔に関して、ひたむきに広く学ばなければなりません。また、催しやワークショップで指導にあたるため、伝統技術の習得にも励みました。体を使う作業も多く、干潟でヨシ刈りをしたり、海で夏は投網したり、冬はドライスーツで海苔網を張ったりと、何もかもが初めての1年目は、あっという間に過ぎ去りました。2年目の今年は、もっと早く時が過ぎているように感じます。

来館者で最も多いのは大田区民です。なかでも大森地区の住民は年間来館者の半数を占めています。毎日のように来館する海苔漁師の孫だと言う人や、展示を見ながら昔話に花を咲かせる来館者も多く目にします。『うちは海苔屋さ



写真 海苔の養殖作業をする筆者

なんだんだよ！』館で勤務する中で、最もよく来館者から聞かれる声かもしれません。その言葉には、海苔漁業に対する地域住民の誇りが感じられます。伝統技術も地元の元海苔生産者から直接教わっています。東京という大都会に居ながら、地域の方々と触れ合う機会が多々あり、その土台は関西大学地理学教室で学んだと感じています。

大森の海苔づくりが終わったのは東京オリンピックの前年、1963年のことでした。東京港の整備と、オリンピック開催に向けた交通網整備のため、東京の海苔漁師が一斉に漁業権を放棄したからです。折しも2020年、再び東京でオリンピックが開催されます。私は地理学教室での学生生活を通し、「グローバルに考え、ローカルに学ぶ。」を心がけてきました。このポリシーを今後も貫きながら、大森を第二の故郷とすべく、日本国内で唯一、海苔を専門的に扱う博物館から、地域のこと、海苔のこと、世界に向けて発信してゆきたい所存です。

(ふなこし すなお：2005年度学部卒・2013年度博士課程後期課程修了)

る友人に出会えたことは、地理学専修のおかげであり、私の大学生活の財産です。本当にありがとうございました。

栗林 梓

小中高で地理が一番好きと答えるのは私くらいなのは寂しかった記憶があります。なので、関大の地理学教室で同じ関心を持つ仲間と、地理学にどっぷり浸かることのできる環境に出会えたことは私の一生の宝です。

桑田 咲

みんなでフィールドワークに行ったり、論文を作ったり、地理にかんする様々なことを学べて楽しかったです。ありがとうございました。

衆名雄太

この4年間の中で様々な体験をさせていただきました。楽しいだけでなく、難しく悩むことも多くありましたが、その分糧となったと感じています。そのことを忘れずこれからも精進してゆきたいと思っています。

興梠亮太

僕は地理が好きという理由でこの専修に入りました。フィールドワークや実習など大変なこともありましたが、充実した4年間でした。

坂田みゆき

地理学専修の個性的なみなさんと一緒に、4年間学ぶことができました。特に、鹿児島でのフ

〈同窓会事務局ニュース〉

- ・2017年12月9日（土）に同窓会幹事会および総会が開催され、2017年の決算が承認されました。
- ・2018年12月8日（土）に同窓会総会を開催いたします。近年の会計状況と事業報告・事業計画を説明いたします。時間・場所は次号およびHP上で案内。
- ・千里地理通信春号に卒業生の就職・進学先一覧（氏名なし・50音順）、教室の一年間の行事予定を掲載することになりました。
- ・千里地理通信にて卒業後10年のOB・OG会員を対象として近況をお知らせいただく、会員だより欄を予定しております。
- ・次の4名+1団体からご寄付をいただきました。石川雄一、大倉俊、曾我傑、東出修一、関西大学地理学教室（50音順・敬称略）
- ・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度、半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願いいたします。

イールドワークが印象に残ってます。楽しかったです。ありがとうございました。

澤田智規

地理学では、普段訪れない多くの土地に赴くことが出来、旅行が好きな友人にも恵まれ、国内外問わずより多くの土地に興味関心を抱くことが出来、地理ならではの体験が多く出来たことに感謝しております。

高橋奈夕

1年留学をしたため、わからない事が多く、様々な場面で迷惑をかけてしまったが、教授や仲間が優しく教えてくれて、とても助かりました。この専修を選んで、沢山のことを学べて良かったです。ありがとうございました。

橘 唯人

高校で地理を学んでいない私にとって、この専修の授業で学ぶことは初めてのことであり、個性豊かな教授ばかりで、退屈する間が無かったです。ありがとうございました。

玉木雄一郎

専修が決定してから3年間はあっという間でした。もう少し真面目に専門科目に取り組んでおけばよかったという後悔の念もありますが、今まで学んできた事を今後に活かしていきたいと思っています。

中井香月

入学時から地理学を学びたかったの

■ □ 学窓から □ ■

地理学を学ぶからには

張 穎知

私は昨年4月に大学院生として地理学専攻に入学しました。中国では経済学を学んだ留学生の私にとって、地理学の授業がインドアの授業だけではなく、臨地授業や現地調査などのアウトドアでの授業もあったのは、新たな体験でした。現地で自分の目で確かめながら様々な事象に触れるのは、新鮮かつ楽しいこととなりました。そのなかで特に印象的であったのは、千里ニュータウンの巡検と4泊5日の尾道市の調査でした。

昨年5月、都市地理の授業で伊東先生と一緒に千里ニュータウンの巡検に出た。千里ニュータウンは日本で最初の大規模ニュータウンで、その後のニュータウン開発に大きな影響を与えたが、開発後約50年を経て、当初多く入居した青壮年はお年寄りになり、高齢社会を具現化するに至っている。そのため、現在では住宅・建物の老朽化によりセンターの再開発と住宅の建て替えが進展してきている。実際に見ると、山田駅から南千里駅までお年寄りは多く見られ、それに対するバリアフリーの整備に力を入れており、多数の老朽化する住宅の建て替えも進んでいた。また、ニュータウンでは、日用品や生鮮食料品を買える近隣センターが設けられたが、現在では空き店舗が増えて衰退傾向にあることが確認できました。この巡検で現地をみる醍醐味が感じられたので、10月の尾道市での調査に期待が膨らむこととなりました。

10月10日から14日までの間、指導教員の伊東先生と野間先生、TAの萬野さん、学部生15名、私を含めた大学院生2名で尾道市の地域調査をしました。私の班では、土地利用調査、アンケート調査などを実施した。初めて現地調査する私には、良い経験となりました。最初の日、何もわからなかったのが不安だったが、先生の指導を聞いて上手くいきました。まず、尾道中心市街地で土地利用調査をした。尾道商店街は約半数を小売業が占めており、空き家・空き地も5分の1を占めている。海岸通りは飲食業が多く、駅から離れていく東側ほど、空き家・空地となっている場所が多い。その後、尾道中心市街地を訪れる観光客と市民へのアンケートを実施しました。国内外の観光客、地元市民との話をもとに、彼らの視点を通して地域現象を考察する楽しさを味わいました。商店街での聞き取り調査では、昔商店街は県内外からの買い物客で大いに賑わっていて呉服屋や茶道関連の店が多く、一方海岸通では海産物の乾物屋が多かったが、近年では空き店舗と飲食店が増加し、空き店舗の再生利用が課題となっていることなどを知りました。

様々な体験から勉強をするのは、楽しかったです。本を読むことは重要だが、実際に確かめことも大切だ……。調査経験を大事にして、今後の自分の研究に活かしたいと考えています。

(ちょう えいち：本文学研究科・博士前期課程1年次生)

■ □ 実習調査報告 □ ■

尾道市での実習調査

中野さくら

私たちは、2017年10月10日から10月14日までの4泊5日間で広島県の尾道市中心市街地と瀬戸田町での実習調査を行いました。指導は、伊東・野間教授と大学院生の萬野さんです。1日目は、昼に尾道市市役所前で現地集合し、市役所の方から尾道市の現状や課題、取り組みなどについてのお話を伺いました。その後は中心市街地班と瀬戸田班の2班に分かれ班ごとに少し下見をした後、定期船で40分ほど揺られて生口島にある瀬戸田の旅館へ向かいました。1日目から3日目まで泊ったこの旅館では、瀬戸田の名産のレモン入りの風呂や新鮮な食事などがありました。実習調査の最後の1泊は尾道市の傾斜地の頂上付近にあり尾道水道を眼下にみる非常に見晴らしのいい旅館へ移動し、夜は打ち上げをしました(写真)。

2日目の10月11日からは、中心市街地班と瀬戸田班の2班に分かれ、中心市街地班は毎朝瀬戸田の港から定期船で尾道市街地へ調査に行きました。私は中心市街地班の中でも傾斜地市街地の実態を知るため、住んでおられる方を対象にアンケートによる聞き取り調査を行いました。車が通れないほど狭く急な傾斜地は不便さを感じましたが、振り返ると尾道の町一体と瀬戸内海に連なる

島々の素晴らしい景色を見ることができました。

中心市街地班のうち渡船について調査した班は、尾道運輸と向島運輸の渡船利用客へのアンケート調査や渡船会社へ従業員数や経営課題などについての聞き取りをしました。朝の通勤・通学ラッシュの時間帯を狙って利用者に話を聞き、渡船が地域住民にとって重要な交通手段であることが分かりました。また、尾道商店街について調べた班は、利用客や商店街の店の経営者の方などから話を聞き、その実態について調査しました。

瀬戸田班は、瀬戸田の名産物である柑橘類を調べた班は生口島の横にある高根島の土地利用調査



や農家への聞き取り調査、瀬戸田のレモンを使用したケーキを生産販売する「島ごころ」という店への聞き取り調査を行いました。また、瀬戸田の交通について調査した班は、自転車をレンタルして生口島をまわって観光スポットを観察、調査したり、交通アンケート調査を行いました。また、しおまち商店街を中心として平山郁夫美術館や耕

三寺博物館などへも調査を行い、観光と街並みについて調べた班もありました。

今回の実習調査では自分で決めたテーマについて事前に調べ、実際に現地に赴いて調査を行うという非常に貴重な経験になったと感じています。これから卒論や研究をする際の重要な手掛かりになると思います。(なかの さくら：本学3年生)

で、その意志が貫けて良かったです。それも、良き友人、先生方に出会えたおかげです。本当に恵まれていると感じました。感謝いたします。

■ 秋の日帰り巡検 ■

八尾市域の過去と現在を歩く

松原 太陽

2017年10月8日(日)、地理学・地域環境学専修の2年生と3年生を中心に、秋の日帰り巡検を行いました。テーマは「八尾市域の過去と現在を歩く」で。地形や土地利用、それらに関する歴史的背景など、事前に2年生が「地理学・地域環境学基礎演習」で1人1テーマを担当して調査し、基本的にはそれぞれが現地で発表するというスタイルをとりました。10月上旬でしたが当日は天気も良く、帽子を被ったり、日傘を差したりする学生も見られる暑い日でした。

八尾は歴史の町です。私は八尾市に住んでいるので、今回の巡検先が八尾市だと知った時は、自分が全然知らない地域が良かったという気持ちもありましたが、それ以上に折角なので八尾のことをみんなに知ってもらいたいという思いで巡検に取り組みしました。

まず初めに、私たちは近鉄信貴線の服部川駅に集合しました。駅前で近鉄大阪線と信貴線、八尾市の統計、生駒山と山麓の複合扇状地についての説明が行われました。信貴線は近鉄河内山本駅から大阪線と分離している路線で、生駒山地に続いている路線だけあって八尾市内でもかなり田舎に当たるエリアを走っています。説明中にも隣の信貴山口駅方向から降りてきた電車が見られましたが、その車両の傾きからも線路のある斜面が傾いていることを確認することができました。

次に、徒歩で八尾市歴史民俗資料館に向かいました。その道中で、高安地区の植木園芸の説明、資料館内では高安古墳群、高安城と信貴山、河内木綿の盛衰、八尾市内の平野、八尾市の工業、大和川の付け替えと旧河道についての説明が行われました。私はこれまで何度かこの資料館を訪れたことがあったのですが、最後に訪れた1年ほど前の時と比べて展示内容が大きく変わっていたことに驚きました。八尾のことを知りたい時にぴったりの施設だと思いました。また、特に大和川の付け替えがあったことは人々の生活に様々な影響があったことが分かりました。

資料館から服部川駅に戻り、河内山本駅まで電車で移動した。そこから隣の近鉄八尾駅の方に徒歩で向かいました。途中、山本の住宅地についての説明がありました。自然堤防の上にある住宅は相対的に少し高い位置にあるなど、意識して見ると興味深かったです。道中を通った玉串川は、春



久宝寺寺内町の核・顕正寺の前での記念撮影

は桜が咲いて綺麗なのでオススメです。そして、大型商業施設であるアリオ八尾に到着し、アリオと萱振寺内町の説明が行われました。萱振は時間の都合で直接訪れられなかったことが残念でした。

近鉄八尾駅周辺で昼食をとった後、駅前の噴水広場に集合し、商店街の変遷、河内音頭、八尾市の農業について説明が行われました。広場には工業のテーマでも話があった、2005年に歯ブラシ生産量日本一を記念して設置された歯ブラシのモニュメントがありました。

その後は直木賞作家の今東光の資料館がある八尾市立図書館を訪れ、商店街であるファミリーロードを通り、八尾寺内町と私が担当した久宝寺寺内町を訪れて解散となりました。私は発表の順番で最後でしたが、久宝寺寺内町は巡検日の学習テーマの総まとめとも言えるような要素が多かったと思うので楽しかったです。

今回のメインテーマにも「歩く」とあったように、よく歩いた巡検でした。私は地元であったため、普段は自転車や車に乗って移動しているような場所も敢えて歩くことは新鮮でした。この「歩く」ということがきっと巡検の醍醐味の1つなのだろうと思います。なぜなら、自分の足で歩くことで距離感が掴めたり、乗り物移動では見落とししてしまうようなものも、じっくり観察したりすることができるからです。そんなことに気づけた日帰り巡検でした。ご協力してくださった皆様、ありがとうございました。

(まつばら たいよう：本学2年生)

中井 蒼

地理学専修では様々な地域へ調査に行くことができ、活発な専修だと思っていました。特に思い出深いのが鹿児島県や和歌山県、ベトナムでのフィールド調査です。馴染みのない場所、知らない景色をたくさん見ることができ、非常に充実した大学生生活を送ることができました。ありがとうございました。

中村文香

近場でのフィールドワークや鹿児島での巡検調査など貴重な体験ができ、とても面白かったです。この専修を選んでほんとよかったなと今思っています。専修の先生方、お世話になりました。ありがとうございました。

橋本雅広

この3年間は、巡検の度に調査地の報告書を作成したり、4年生では卒論に追われたりと、常に課題と向き合っていた気がします。しかし、その一つ一つが大学生活の良き思い出になりました。

東林岳図

3年間大変お世話になりました。巡検、鹿児島実習、皆で協力して発表資料を作成したこ

八尾市北高安地区における花き栽培とその流通

付 雪夢

1. はじめに

八尾市高安地区は生駒山西麓の水はけのよい複合扇状地に立地し、大阪府近郊における有名な花き・植木生産地である。高安地区は農家1戸当たり58.7aの経営耕地面積しか有さず、きわめて小規模零細な土地生産基盤の上に、花き・植木栽培が水田・畑で営まれている。本稿ではこの高安地区での花き園芸栽培の成立と変容のうち、北高安地区の花き栽培や流通を論じる。

2. 北高安地区の花き生産

この地区の花き栽培の商品化は、水田の畦畔を利用して春の枝もの、前栽の桜の木などを切って大阪の天王寺・玉造・天満などの問屋、さらには東高野街道（現在の旧国道170号線）を北上して京都方面まで売りに行ったことが始まりとされている。その後、明治20～30年頃に神立^{こうだて}において、住吉郡長居村（現在の住吉区西長居町）や池田市細河地区から栽培技術や種苗・販売方法を学び、本格的に生花、仏花など切枝花木の栽培を始めた。大正末期から昭和初期にかけて八尾市神立地区・大窪地区をはじめ、府内の豊中、池田、東大阪等各産地で本格的な花き栽培が始まり、花き生産地としての地位を確立していった。

1941（昭和16）年、臨時農地等管理令により、花き・植木（作付）地は芋や麦といった食料農作物へと転換しなければならなくなった。1944（昭和19）年には十割統制を受けて観賞花は生産禁止となった。高安山麓地域における商業的花き園芸を崩壊させるものであった。

しかし、戦後の花き・花木産業の復興は早く、昭和20年代前半には、生活享受の風潮が進むとともに切り花の売れ行きも盛況となり、フレーム栽培による増産から、復興を見ることとなった。その後、飾花の流行に伴い、キク、特に寒菊が各農家に栽培されるようになった。1955（昭和30）年頃、花きの栽培面積は戦前の規模まで復活している。1960（昭和35）年の大阪府の花きの生産額は、約8.7億円で全国1位になっている。

しかし、1998（平成10）年以降は、都市化の進展による農地の潰廃や宅地・工業用地化が進み、栽培面積と農家戸数の減少、後継者不足から低迷が続いている。一

方、信貴山生駒山系八尾市高安山の山麓の花木園においては、稽古花の需要減少によって農地の栽培管理が行き届かず、荒れた状況が目立つ。

現在八尾市で栽培している代表的な花は、菊類では輪菊、スプレー菊など、球根切花のユリ、チューリップ、草花類のナデシコ、トルコギキョウ、鶏頭などがある。

3. 花き栽培技術の変遷

花きの栽培技術に関しては、1912（明治45）年頃に神立地区において「ムロ出し」と呼ばれる栽培法が行われた。これは、傾斜面の土地を利用した横穴、または納屋を利用したもので、空間内にカマドを築き、鍋で湯を沸かして蒸気で温度を上げ、花きを加温促成する方法である。また、同時期にはガラス温室が普及し、炭火等を入れて加温促成が行われるようになり、加温はストーブの煙突を温室内に通して煙管の熱を利用する形を取り、昭和30年代までその方法が引き継がれていた。

その後、家庭用小型石油ストーブの普及に伴い、小型石油ストーブが広まった。最近では、そのほとんどが温湯暖房用の小型ストーブで行われている。神立、大窪集落は大消費地大阪を控え、季節ものは言うに及ばず、永年性の花木需要も昔から多くあり、促成開花、芽だし技術については、日本一と言われている。大正時代になると、土中に土管を埋設し、「オンドル」的方法が用いられるようになった。

1921（大正10）年頃からは、炭火でストーブを焚き、煙突を温室内に通して加温する方法になった。その後は、炭火から石油ストーブの開発普及によって温室用小型石油ストーブが利用されるようになる。1955年頃から農業用ビニールが普及し、ビニールハウスを用いた促成栽培が、切花栽培でも多く用いられるようになった。現在では、施設（温室、ビニールハウスなど）による促成栽培を導入して、キクを主力にカーネーション、球根類を他産地より早く生産・出荷し高値での販売を目論む。日照栽培法は、1972年頃からはじまる「電照菊」で、菊の花芽が形成される前に人工的に光をあてることにより、花芽の形成と開花時期を遅らせる方法である。ビニールハウス内で、秋菊が花芽を形成する前の5～8

月頃の夜間に、電球などで照明をあて、花芽を形成させずに開花時期を数ヶ月遅らせ、1～3月に出荷する。

近年、マルチ栽培（写真1）が普及し、苗の生育を促進させるために、畝や苗の株元をポリエチレンフィルムなどで覆う、除草や土寄せ作業の軽減やセルトレイ育苗により、農家高齢化に対して省力化が図られる。神立集落では、水田を畑状態にして、キクを栽培する田畑輪換作に特色がある。



写真1 神立でのキク栽培地（筆者撮影）

4. 花き流通・販売の変遷

明治中頃後、南高安地区の恩智、神宮寺集落では、自家栽培の花を直接行商して大阪方面に販売している生産者が現れた。いっぽう北高安地区では、自家栽培品だけでは量も種類も不足するため、付近の生産者が栽培した花を購入し、自家栽培品とともに小売行商するより商人マインドが強い。

現在、北高安地区の花き生産農家のほとんどは、箱詰め及び荷造りされた切花、枝物を神立地区あるいは大窪地区にある出荷場へ運び込む。運び込まれた出荷物は、貨物トラックによって府内（鶴見）および兵庫、京都等の各卸売市場への搬送される（表1）。自らで直接出荷物を各地方卸売市場へ搬送される農家もいるが例外である。そのほか、一部の農家では、近所のJAが経営母体となる道の駅や直販ショップへ持ち込むケースもある。大窪集落の7件の例では、夫婦で花桃、桜や花束に入れるミリオンアスパラなど、多品種を少量栽培して労働分散をはかっている。

卸売市場の大部分では、コンピューターを使った自動セリ機による「機械セリ」が行われ、小売業者などに買い付けられる。そして、近年、インターネット販売も流行っている。



写真2 大阪鶴見花き地方卸売市場のセリ取引（筆者撮影）

それに対して、南高安地区の恩智、神宮寺地区の花き生産農家は、現在も昔からの小売で、切花を軽貨物トラックに載せて大阪市内の得意先の各家庭へ直接販売しており、共選共販への意識や志向は他産地と比べてきわめて低い。

表1 大窪集落での花き経営状況

	従事者年齢	専兼別	経営地	栽培品目	出荷先
①	H 66, W 63	兼	10 a (3)	花桃, 桜	JA 中河内
②	H 77, W 75	専	70 a (9)	花桃, 桜, 雪柳, 菊, 鶏頭	鶴見 卸市場
③	H 58, W 58	専	30 a, 借入 170 a	花木類	鶴見 卸市場
④	H 60, W 60	兼	1.8 a (3)	花桃, 木蓮, サン シュ, 梅, 桜	個人
⑤	H 75	兼	5 a (3), 借入 5 a (3)	花桃, 桜, 菊, 鶏 頭	鶴見 卸市場
⑥	H 62, H 58	専	70 a (12), 15 a (4)	雪柳, 花桃, 孔雀 草, ミリオンアス パラ, ユーカリ	鶴見 卸市場
⑦	H 71, W 69, 雇用 5 人	専	169 a (12), 92 (7)	サンシュ, トク サ, 花桃, 梅類, ユーカリ, 寒桜, イボタ, 豆柿	鶴見 卸市場

（花き栽培農家へのアンケート調査から作成）

5. 終わりに

今後、北高安地区の花き農業は、収益性の高い作目・作型を導入し、担い手農家の育成を中心としながら、都市に立地するという特色を活かした農業の発展を目指すこととする。さらに、都市農業としてのメリットを活かし、消費者ニーズに対応した高付加価値花きを供給できるようマーケティングから商品開発、生産、販売までの一貫したシステム作りなどを目指す。また、卸売市場の大規模化に対応するため、共選共販体制の整備を図る。プラグ苗利用や自動防除など、共同利用機械施設の導入を図り、省力化、低コスト化を推進する。花き生産、経営、流通の改善に関する事業を通じ花き生産者の経営発展とともに、消費者への安定供給を図るための各種活動の展開を求められる。

参考文献

- 八尾市立歴史民俗資料館「高安郡の総合的研究」, 2014, 89-91 頁。
付雪夢, 『日本の花き園芸光と影ー歴史・文化・産業ーシリーズ・いま日本の「農」を問う⑩』(書評), 史泉, 第126号, 2017, 37-42 頁。

〔付記〕本稿は2018年1月に提出した修士論文「八尾市高安地区における花き園芸栽培の成立と変容」の一部をまとめたものである。

（ふ せつむ：2018年3月本学文学研究科・博士課程前期課程修了）

となど、地理学専修でしかできない経験をたくさんさせて頂きました。この経験は社会に出ても生きてくると思います。ありがとうございました。

疋田優大
地理学を学び、今まで持っていなかった新たな視点を得れたと感じています。自分たちの生活に身近な学問である地理学を学ぶことができて良かったです。今後の生活に活かすことができますようにしたいです。地理学専修の皆様今までありがとうございました。

平内雄真
二回生から三年間、ご指導、ご鞭撻ありがとうございました。地理学教室に入り、専門的なことだけでなく、礼儀や常識も、先生方にはご迷惑をおかけしながら勉強できました。春から大学院生となるので更なる専門性を高めて豊かな人生を送ります！

松川昭太郎
自分のやりたい研究ができて満足でしたが、いろいろと迷惑をかけてしまいました。申し訳ありません。

水野 真
関大地理で学んだ知識と南さつまの実習で得た経験を糧に大学院、そして教職の道を歩みたいと思います。常に学ぶ姿勢を持ち続けます。新しい世界、考え方を教えていただき、ありがとうございました。

院生・学部生の業績（2017年1月～12月）

【論文】

張 旭 2017. 「中国の宗教建築に関する諸研究の展開と展望－日中研究者による視点と手法をめぐって－」, 『史泉』, 第126号, 20-36頁.

【学会発表】

張 旭 2017. 中国の宗教建築に関する諸研究の展開と展望－日中研究者による視点と手法, 歴史地理学会第60回大会（愛知教育大学）, 2017年6月18日

萬野晴彦 2017. 立山をめぐる近代技術の流入とまなざしの変化, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

張 宇熙 2017. 石炭エネルギーの開発・利用と鉱工業都市の持続の一考察－陝西省榆林市と北九州市の環境問題－, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

張 穎知 2017. 上海市の人口増加とその課題－2000年以後を中心に, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

栗名友太 2017. 奈良盆地南部の河川流路と式内社・江戸時代の絵図との対応関係, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

中井香月 2017. 黒潮影響下にある紀伊半島南西海岸ビーチ堆積物中の造礁サンゴ礫の特性, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

安田えり 2017. 京都の近郊農村がとりむすぶ周囲地域との空間的社会関係－向日市物集女を中心に－, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

【ポスター発表】

伊東理 野間晴雄 萬野晴彦 張穎知 上村浩立 家田涼平 岸本夕佳 重名ひな子 田所亜未 羽窪亮太 中野さくら 八川綾佑 2017. 尾道中心市街地の変化と課題－地理学・地域環境学「尾道市実習調査」中間報告1－, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

野間晴雄 伊東理 萬野晴彦 伊藤純弥 岡村裕子 蔭山胡桃 鈴木亮太 辻村啓悟 二木裕太 湯河勝平 阿部真依 2017. 尾道市旧瀬戸田町の観光・交通の現況と柑橘栽培－地理学・地域環境学「尾道市実習調査」中間報告2－, 関西大学史学・地理学会2017年度大会（関西大学）, 2017年12月2日

伊東理先生退職記念事業のお知らせ

伊東理先生が2018年度末をもって関西大学文学部をご退職なされます。つきましては、以下のようなご退職記念事業をさせていただきます。詳細は、折り込みの別紙をご覧ください。

最終講義

日時：2019年1月17日（木）17時～18時半

タイトル：未定 会場：関西大学学内の教室（次号でお知らせします）

ご退職記念パーティー

日時：2019年3月22日（金）19時～21時

場所：旧桜宮公会堂 大阪市北区天満橋1-1-1

会費：約1万円（予定）

申し込み：折り込み別紙をご覧ください。

論文集の発行

伊東先生のご退職にあわせ、教室の学術誌として、専任教員のほか、先生にゆかりの地理研究者、教え子による論文集を発行します。

抛金のお願い

一口2,000円から抛金をお願いしております。2口以上抛金いただける方には、上記論文集を送付させていただきます。詳しくは別紙折り込みをご覧ください。

原稿（「伊東先生との思い出」）募集

千里地理通信第79号（2019年3月刊行予定）は「伊東理先生退職記念号」として増ページで刊行予定です。そこに掲載する「伊東先生との思い出」を400字から800字で募集いたします（折り込み別紙参照）。

教室だより

■地理学・地域環境学実習

2017年10月10日（火）から14日（土）まで、広島県尾道市で、地理学・地域環境学実習を実施した。指導教員は伊東、野間。TA 1名、院生4名3回生、3回生15名の計20名で行った。2018年3月に調査報告書『広島県尾道市の地理』を刊行する予定。

■秋の日帰り巡検

2017年10月8日（日）「八尾市域の過去と現在を歩く」をテーマに、秋の日帰り巡検を下記のコースで実施した。コース：近鉄服部川駅（集合）－大窪地区（花き・植木、扇状地）－八尾市立歴史博物館（綿作・高安山・大和川・古墳 展示見学）－近鉄服部川駅－（近鉄信貴線）－近鉄河内山本駅－長瀬川旧河道住宅地－萱振（寺内町）－近鉄八尾駅北口（駅前再開発）－ファミリーロード商店街（河内音頭）－八尾市立図書館（今東光資料館）－大信寺（八尾寺内町）－久宝寺寺内町（解散）。参加者33名

■第106回 地理学研究会例会（地理学セミナー）

2017年12月11日（土）に第1学舎A301教室にて、地理学研究会例会（地理学セミナー）を開催した。M1大学院生による10月実施の尾道市での実習調査の中間報告の後、橋本敬吾（JR西日本）「10年間を振り返って－関大生から鉄道人へ－」石川雄一（大阪商業大学）「人口減少社会と西九州中規模都市における空間構造の変容に関する課題－住宅誘導、公共交通再生、商業まちづくり－」木庭元晴（関西大学）「飛鳥の幾何学」の発表があった。例会終了後、関大正門前「ケープ・コッド」で懇親会を実施した。

■教員の外国出張

松井幸一：2017年12月23日（土）－2018年1月2日（火）、科学研究費再申請支援研究費による中国福建省での石敢當分布および民俗調査。

■2017年度卒業生・修了生とその進路

2017年度の卒業生は27名、そのうち8名が関西大学大学院（4名）、名古屋大学大学院（1名）、筑波大学大学院（2名）、大阪教育大学大学院（1名）に進学する。就職は19名、そのうち情報提供してもらった就職先は大阪市交通局、神戸電鉄株式会社、紀陽銀行、みなと銀行、JAL スカイ大阪、JTB 中国四国 である。大学院博士前期課程の修了者は2名である。

■その他

・関西大学大学院博士課程後期課程退学の張旭さんが提出した学位論文「中国の都市における宗教建築の歴史地理－北京の都市景観への影響を中心に－」（主査 野間晴雄）が1月18日（木）の公開審査会および2月の文学研究科委員会の議を経て、3月22日（木）に開催される学位授与式で学長より張さんに博士（文学）が授与されることに決定した。

・2月9日（金）、13日（火）の2日間にわたって卒業論文の口頭試問が行われ、栗林梓君の「高等教育機関への進学動向と人口流出構造－長野県の高専卒業生に着目して－」が専修の最優秀論文として、卒業式の日に学部長表彰を受けることに決定した。また、2月15日（木）には修士論文の口頭試問を実施した。なお、卒業論文、修士論文の題目は次号に掲載します。

三村芽以

ベトナムでの調査、鹿児島実習など、他ではできない楽しい思い出が一杯でき、地理学を専攻して良かったと心から思います。皆さん今まで本当にありがとうございました。

安田えり

私は地理学専修に所属し様々なことを学びました。生活を行う上で、普段は気にしないようなことも注目するようになり、新たな視点を得ることができました。良い経験を沢山させていただき、感謝しています。

山口隆介

地理学を学んだことは非常に有意義であり、大きく成長することができました。このことを糧に今後も頑張ります。ありがとうございました。

付 雪夢

地理学専修に入り、皆さんと出会って、本当に良かったです。日帰り・1泊巡検、実習調査を通して自ら足を運び、現場の声に耳を傾けることが、私にとって貴重な経験になりました。地理学教室の皆さん、この二年間ありがとうございました。

萬野晴彦

2年という短い間でしたが、野間先生をはじめ先生方の丁寧な指導により、充実した院生活を送ることができました。有難うございました。

2018年度 教室行事予定

2018年度の主要な行事予定は以下です。詳細は「千里地理通信」の次号にて掲載する予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

〈2018年〉

- 4月19日（木）：新専攻生歓迎会（18:00開始、於：新関西大学会館4F「チルコロ」）
- 10月7日（日）：秋の日帰り巡検（北摂・池田方面）
- 12月1日（土）：関西大学史学・地理学会大会
- 12月8日（土）：関西大学地理学研究会例会（15:00開始、於：第1学舎A301教室）

〈2019年〉

- 1月17日（木）：伊東理先生最終講義（17:00開始予定 於：関西大学）
- 3月22日（金）：伊東理先生ご退職記念パーティー（19:00開始、於：旧桜宮公会堂）

ブラジル日系コロニアの文化活動

内田 忠賢

科学研究費（日本学術振興会による研究助成）のお蔭で毎年、ブラジルで出かけ、日系人による文化活動を見ることができた。具体的には、ここ26年間、私が参与観察するダンスイベント「よさこい（YOSAKOI）」調査の一環だ。「よさこい」は、集団での、和風もどきのダンスの競演およびその文化活動を指す。1954年に四国、高知市で始まり（よさこい祭り）、1992年に北海道、札幌市で模倣された（YOSAKOI ソーラン祭り）ことをきっかけに各地へ伝播。「よさこい」イベントは現在、全国約800ヶ所で開催されている（私の編著『よさこい YOSAKOI 学リーディングス』（開成出版）を参照）。伝播の結果、チームやイベントの特徴や志向性により、高知系、札幌系と分類する場合が多い⁽¹⁾。若い世代が積極的に参加するため、学生チームが多い。関西大学にも強豪のチーム「漢舞」がある。

話を戻すと、「よさこい」は国内に留まらず、海外各地でも展開している⁽²⁾。たとえば、台湾、ベトナム、タイ、インドネシアなど、日本に好感を持つ国々では、日本語や日本文化を学ぶ現地大学生たちを中心に「よさこい」のチームが作られ、イベントが開催されている。私は、ハノイの主要ないくつかの大学へ集中講義に出かけたが、どの大学にも「よさこい」サークルがあり、街では大きな「よさこい」イベントが開催されていたので驚いた。一方、ハワイや北米、南米では、日系人の文化活動として「よさこい」を採用するケースが多い。なお、南米以外の大部分は高知系、ブラジルは札幌系との印象を私は持つ。

前置きが長くなった。ブラジルへと話を進めよう。日本とは地球の反対側にあるブラジルには日系人が約160万人暮らす。明治以来の移民たちが作り上げた強固な日系コロニア（同郷ネットワーク）が存在する。とはいえ、すでに、コロニアの中心は3世、4世となり、彼女らは日本語を話すことはない。しかし、ルーツである日本や日本文化への関心は強い。ブラジルでの日本文化の現状については、井上章一『ハゲとビキニとサンバの国』（新潮新書）や細川周平『サンバの国に演歌は流れる』（中公新書）などが手近に教えてくれる。

若い日系人が熱中する文化活動として、よさこいと和太鼓がある⁽³⁾。NHK-BS『新日本風土記 サンパウロ』



写真3 マリンガ日本庭園

ゾン中流の都市、マナウスにも有力チームがある。

よさこいがブラジルで広まったのは21世紀に入ってから。最初はVHS、DVDの映像として伝わった。2003年には、第1回目の全国大会、YOSAKOI-SORAN ブラジル大会が開催される。リーダーである飯島秀昭さん（1950～）の熱意による。彼は、ブラジル第2位の美容室チェーン SOHO の総帥だ。飯島さんのお人柄を紹介する字数がないので、彼の著書『ぼくのブラジル武者修行』（致知出版社）を読んで欲しい。よさこいの話題も出てくる。

第10回（2012年）までは、ブラジル最大の都市、サンパウロで開催された。それ以降は、日系人が多い地方都市、マリンガ（パラナ州、サンパウロから空路約1時間）での開催。飯島さんの熱い想いに共感した日系2世、3世のタムラ親子が中心となっている。マリンガは人口約33万人、高知市とほぼ同じ規模の街だ。マリンガ空港の正面には赤い鳥居があり（写真2）、郊外にはブラジル最大の日本庭園がある（写真3）。「よさこい」は、伝統的かつ由緒正しい日本文化としては正直、邪道かもしれない。でも、移民たちが作ったハイブリッドな民族文化の国、ブラジルでは正統な民族文化と評価して構わない。日系コロニアの中で、「よさこい」は日本人の心を伝えるツールとして十分役立つと、私は確信する。

注

- (1) 1999年に始まった名古屋「につぼんど真ん中祭り」が、札幌に次いで2番目に大規模となったため（3番目が高知）、「どまつり系」という分類も現れた。
- (2) 2017年の高知よさこい祭りでは、ヨーロッパの「よさこい」愛好家たち（現地在住の、いわゆる白人）がチームを組んで初出場した。
- (3) 拙稿「よさこいと和太鼓」『日本文化の事典』丸善出版、2015年。なお、年配の1世や2世の間ではカラオケや民謡の他、現在は俳句ブームが続いている。

（うちだ ただよし：奈良女子大学教授）

写真1 よさこい練習風景
（サンパウロ北海道会館）

写真2 マリンガ空港正面の鳥居

千里地理通信 第78号

2018年3月20日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

編集担当：伊東 理 山岡真一郎

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

E-mail：kandaichiri@gmail.com

URL：http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪 00970-4-81149